

キャリア教育の前提は厳格な評価から - 宇都宮大学のキャリア教育及び就職支援を考える -

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林 明夫

1. はじめに

(1) 大学に限らず教育機関の質は何で決定されるかといえば、次の3者が考えられる。

カリキュラムの質
教師の質
マネジメントの質

(2) キャリア教育を考えるに当たっても、たえず教育機関としての質を考えることが、高等教育機関としての国際競争力と評価を高めるために求められる。

(3) 但し、キャリア教育の前提となる高等教育機関に学ぶ学生・大学院生としての基礎的能力(キー・コンピテンシー)を確保する「厳格な評価」を支援する大学としての支援体制構築を行うべきと考える。

2. キャリア教育の前提としての「厳格な評価」制度構築のために

(1) OECD では 15 歳時の学力到達度調査(2000 年度より3年ごとに実施。PISA と略称。the Programme for International Student Assessment.)を行っているが、大学生版の国際標準の学力到達度調査の実施がほぼ決定し、数年後の実施に向けて調査・研究が開始されている。ヨーロッパ域内の高等教育機関の連携強化による地域全体としての質的向上、国際競争力強化を目指し、2010 年を目標に 2000 年にスタートしたボローニア・プロセスも、最後の仕上げ時期である 8 年目に入った。学生、教師、マネジメント層のヨーロッパ域内の移動性を高め、ヨーロッパ全体の高等教育機関の質的保証を担保しようというボローニア・プロセスの試みは、ヨーロッパ全体としてのアジアやアメリカ、オセアニア諸国との国際競争に打ち勝つための国際競争力を目指してのものと考える。

2000 年に始まり 2010 年を目標とするヨーロッパの高等教育機関の連携強化による国際競争力強化を目指すボローニア・プロセスは、同じく 2000 年から 2010 年まで進行中のヨーロッパ全体の雇用の創出、雇用の維持をも含む成長戦略であるリスボン宣言とも連動している。ヨーロッパの高等教育機関で学ぶ者一人ひとりが、国際標準の「厳格な評価」のもとに単位や学位を取得し、21 世紀の知識基盤社会、グローバル化した多様性に富んだ国際社会の中で高い志を持って自律的に活動する能力を備えることが、一人ひとりの人生の成功と正常に機能する社会のために必要であるとの考えからと思われる。

キャリア教育の前提となる大学としての質保証は「厳格な評価」の実行からと、私は確信する。

(2) 「厳格な評価」は、学生が学業に専念できる体制整備から

学生寮の大幅な整備による定員の大幅な増員を

(ア) 生活のためのアルバイトに精を出すこともよい社会勉強にはなるが、学生の本分は勉学であるので、できるだけ学業に専念できるように、宇都宮大学の大学生・大学院生の3分の1が入寮できるまで学生寮の整備を文字通り「地域社会総がかり」で行うことを提言する。

(イ) とりわけ、留学生の生活費負担は厳しいものがあるため、留学生の希望者は全員入寮できるよう早急な整備を提言する。

図書館の 365 日、24 時間稼働を

(ア)大学の知的中心、心臓部は、大学図書館である。図書館が 365 日、24 時間稼働してはじめて、学生・大学院生はいつでも好きなだけ学業に専念できる。人間の体の心臓は 365 日、24 時間、一瞬たりとも停止してはならないのと同様に、大学の知的中心、学問的中心である大学図書館も 365 日、24 時間、一瞬たりとも閉館してはならないと確信する。

(イ)現行の稼働日数、稼働時間を調査し、何が原因で閉館が生じるのか、何が原因で図書館を利用する学生・大学院生が少ないのかを徹底的に調査・研究し、本当の原因を究明。「厳格な評価」に耐え得るような図書館を目指すことを提言する。

(ウ)宇都宮大学に限らず、なぜ最近の大学生や大学院生は図書館を活用しないのか。その理由の一つは、教員が課題を与え続けられないからであるとも推測できる。しかし、「大学の大量化」「大学生の学力不足問題」のために図書館活用型の課題を与えることは困難と判断することは、自らの社会的責任の放棄と私は考える。是非、諦めることなく、学問で学生・大学院生を鍛える、人格形成を行う大学としての使命を果たして頂きたい。

「語学」と「コンピュータ」は、各自の専門領域の深化と同様、大学としての「厳格な評価」基準達成に向けての支援体制構築が必要不可欠と考える。

(ア)ヨーロッパでは、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages Learning, Teaching Assessment)」(吉島茂、大橋理枝他訳で、同名の図書が朝日出版社より 2004 年 9 月 25 日刊)が、30 年以上の議論の積み上げの上に示され、ポローニア・プロセスとも連動して、ヨーロッパの語学教育の飛躍的向上に役立っている。

ヨーロッパの大学卒業生であれば、ほとんど例外なく英語によるコミュニケーションが極めて高いレベルで可能なのは、この「共通参照枠」を活用して、大学の語学教師が「厳格な評価」を行った結果であると私は考える。

よく知られていることではあるが、ヨーロッパでは大学卒業生が就職する際に、高等教育機関で学習した言語について、この「共通参照枠」に基づく「全体的な尺度」と同時に「聞くこと」「読むこと」「やり取り」「表現」「書くこと」の 5 領域について 6 段階で評価した結果の証明書を雇主に提出し、言語能力の証明とすることが多い。

まさに、大学等の高等教育機関における語学教育が、「共通参照枠」という客観的な基準のもとに行われ、「厳格な評価」と結びついて、キャリア形成、就職という一連の流れをつくっていると見える。

(イ)宇都宮大学における語学教育の実体は、果たしてヨーロッパの「共通参照枠」に照らせばどの程度で行われているのか、是非調査・研究をし、ヨーロッパレベルでの語学教育を全学を挙げて行う「しくみ」づくりを提言する。

(ウ)語学教育のキー・ポイントは、その語学ができるから担当させるのではなく、専門職としての語学教育を修了した教師に担当させることにある。(文学の研究者は、必ずしも語の教師に適しているとは限らない。逆に、学習者の立場に立つと不向きな場合が多い。)例えば、英語であれば、TESL(Teaching English as a Second Language 第二言語としての英語教授法)コースを修了した大学院修士課程修了者を英語教師として採用、研修し続けることを提言する。(他の言語についても同様の資格が存在するので、その修士号保持者とする。)

(エ)宇都宮大学のみで採用しきれない場合には、「大学コンソーシアムとちぎ」に「語学センター」を設立し、「第二言語としての語学教授法」を修士課程で修了した語学教師を一括採用。研修をし続けながら、各大学に配置することを提言する。

(オ)その場合には、宇都宮大学独自の、または「大学コンソーシアムとちぎ」独自の「共通参照枠」をヨーロッパその他を研究しながら作り続けることが、宇都宮大学や栃木県内の高等教育機関の独自性と国際競争力強化、最終的には、全学生の語学力向上、キャリア形成に資すると確信する。

(カ)「コンピュータ教育」についても、「語学教育」と同様の取り組みが求められる。これに加えて、OCW(Open Course Ware オープンコースウェア)、つまり大学の知財を人類のた

めに開放する試みを宇都宮大学でも開始することを提言する。(MIT では既に、2000 講座のうち 1800 を OCW として Web 上で著作権を放棄した形で開放。日本でも「日本オープンコースウェア、コンソーシアム」加盟大学が少しずつ活動をスタート。)

3 . おわりに - 全学部で、高度職業人養成専門職大学院の設立を -

(1) キャリア支援の極致は、一度社会に出た高等教育機関の卒業生の再教育、再々教育である。ドラッカーは、「教育ある人」を「一生勉強し続ける人」と定義した。宇都宮大学は、地域の発展に対する役割の一つとして、栃木県内の大学教育等修了者に対する再教育、再々教育を正式に行うことが求められる。(「一生勉強、一生青春」相田みつを先生)

(2) 具体的には以下の通り

教職専門職大学院 - 学校経営も含む教職専門職
国際経営・国際公務員専門職大学院
工学系 MBA - ものづくり・製造業の経営管理者
農業・林業 MBA - 株式会社化する農業・林業経営者

(3) 宇都宮大学の学部・大学院卒業生の半数以上の、栃木県内での就業促進のしくみづくりを提言する。

(4) とりわけ、外国人留学生全員の日本国内就業の促進のしくみづくりを提言する。

- 宇都宮大学のご発展を祈念申し上げます。 -